





## 第四回リニア対策委員会

## リニア中央新幹線の

開通に向けて

公民館では、豊丘村の将来に大きな影響をもたらすリニア新幹線計画について、村民の皆さんの中に期待する声、心配する声など様々なご意見があることを踏まえ、公民館報において「リニアの声」と題するシリーズを特集することになりました。建設的なご意見の発露の場となるよう期待するものです。

この意見を述べさせたい  
だきます。

豊丘村商工會長  
木

今般、公民館より公民館報「とよおか」を発行するにあたり、現在話題となっているリニア問題について、商工会として今後どのように考え、行動してゆくのか是非お聞きしたい旨のご依頼をいただきました。

平成二十六年十月に国土交通大臣がJR東海に工事計画を認可し、建設工事がスタートしています。豊丘村では、リニア対策委員会においてトンネル工事等による掘削土の処理・水資源の問題等について、進捗状況等の説明を受けている段階です。

具体的な動きがない中で、開通後の期待や課題について述べることは非常に難しい点があり、一般論的になってしまいますがご容赦いただきたいと存じます。

具体的な動きがない中で、開通後の期待や課題について述べることは非常に難しい点があり、一般論的になってしまいますがご容赦いただきますと存じます。

# 6年 脇田実歩

実は、私は修学旅行で相撲観戦に行くと聞いて、楽しみではありませんでした。それは、相撲に関心がなかつ

取組後に、御嶽海関は私たちのために五分程度待つていてくれていて、とてもうれしかったです。サインを

御嶽海闊との記念撮影に満面の笑顔

さんは四人きょうだいの長男として現在地に生まれる。小学校があまりに近かったので、寄り道して友達との遊び時間を作り出して楽しんだ。修学旅行は戦争酬んで、昭和十七年、生徒総数九十六名。草鞋履き姿で唐松崎を越え、大鹿村、信濃宮の掃除、福德庵の見学などし、大河原小学校に宿泊。翌日は地蔵峠、和田他を経て満島に至るまで徒步、ここで初めて乗物に乗る。このようないい生活が当たり前であつた時代を経て卒業後、竜東農学校に学ぶ。十七歳の時に親の反対を押し切つて予科練習生を受

驗し十六期生として合格。土浦航空隊に入隊するが、時既に敗戦間近の昭和二十一年。航空隊とは名ばかり。米軍の本土上陸を想定した対処訓練や防空壕掘りなどに終始した。敗戦により帰郷して母校へ挨拶に行くと、助手として誘われ三年間勤めた。統いて役場、農協に勤める。

昭和二十九年にトモさんと結婚。トモさんは山吹新田に生を受け、小さい頃から頑丈な身体で、家の農作業に大きな力となつた。手

滝川から神稻境までの旧県道沿いの人家など描いた地図を額に収めたり、古い新聞を大事に保存されていた。また豊丘村公民館報の創刊号当時に編集委員をされていたことなど、懐かしく當時を顧みられた。一方トモさんは大正琴、華道、茶道など多くの趣味を持つておられたが、現在はミニディでの仲間との会話、野菜作りなどで楽しんでおられる。最近では珍しい九人の大家族。互いに「・のお陰」という感謝の気持ちが、家族の絆を強めているのだと感じました。

原  
ふみと  
史さん  
八十八歳  
トモさん  
八十五歳  
御夫妻  
寺垣外在住

# 夫婦で築いた家族の絆

# シリーズ「元気な高齢者」 ②

A black and white photograph capturing a group of people, likely a family, engaged in outdoor work in a rural setting. In the foreground, a person is bent over, their hands submerged in a shallow puddle of water. Behind them, several other individuals are standing in the water, some appearing to be washing or rinsing items. The background shows a lush, green landscape with trees and bushes, suggesting a farm or garden environment. The overall atmosphere is one of a traditional, hands-on labor scene.

各自が目標をもって臨む（城地区）



# ～シリーズ～ 豊丘の自然 No.152

## チャミノガ (ミノガ科)



我が家のナツツバキに蓑虫がいくつもぶらさがっていた。名前は四方さんに聞くことにして、正確にと思い採集。三十個体を菓子箱に入れて、思い出し箱に入れて、思い出した。六十年近く前にも同じような事をしたことを。小さくちぎった紙くずの中に、蓑から出した幼虫に、新たな蓑を作つてもらおう

と。

辞書には「ミノガ科の幼虫。葉や小枝を繕り合わせて蓑のようを作つてすむ。雌は成虫になつても蛆状で蓑の中で一生を過ごす」とあった。  
蓑笠、今流に言えば、雨がっぱ。私たちのまわりには知らない事だらけ。今年の二十五日は私の七十四才の誕生日。まだ、知りたい事が、ある。

収集した品物に囲まれた部屋で、お話をお聞きしました。棚に、たくさんきれいに並べてありました。それでもコレクションの半分にも満たないそうです。収集する癖は、小学生の頃読んでいたマンガ雑誌を集めました。親おいたのが始まりです。親に黙つて片づけられて大泣きしたこともありました。若い頃には一年間に

J・古いおもちゃ・ジャズ  
趣味はレコード集め・D  
喫茶のマッチなどの収集、  
詩やイラストを描くこと、  
写真撮影などあげたらきり  
がありません。次々につな  
がつてきて一つに絞れない  
そうです。

今回から、村内にお住まいでの趣味に卓越された方々を特集していくます。同じ村に居ても、意外と知らないお隣さんの趣味をインタビューしてきました。

## アンテナを高く

下市場 松尾 晃さん  
(59才)

らない、おもしろいことはないか考えてやつてある。そこには歴史があり、そこからいろいろ広がっていく。ものには一つのトップクラスのことをするべきだ。

一 例えば、行つてみたい  
場所があれば、地図を見て  
調べる。すると他の地図も  
集めたくなるなど、一つの  
ことから、どんどん広がって、  
今に至つてゐる。

俳句  
短歌

同年の宿に「ふるさと」歌いたる笑顔と美声の友は逝きる  
八日会  
天竜の急流の波に乗り遊ぶ子鴨の三羽夕暮れてゆく  
紅 岳道 梅

## 「戸籍の窓」 廃止のお知らせ

公民館報では、昭和三十八年六月発行の第三十三号から「戸籍の窓」を掲載してきましたが、個人情報保護の観点から、先月号をもつてこのコーナーを廃止することにいたしました。ご理解いただきますよう、よろしくお願ひします。

病床の母に藤花みせたいと車に乗せて会釈の母娘  
（ははこ）  
松下 泰見

あさまだき蛙の合唱始まらず秒針の音で向える目覚め  
母の日に贈られし花のかずかずで小さき庭は花園となる

芍薬の畠いち面紅色に鮮やかないろ口紅に良し

大原眞由美 福澤貴美恵

筒井 恵子 松尾ヒサコ

木下 順水	宮下 公	宮下 純子	丸山 時子	林 恵美子	北原 昭子	晋山にあわせ建て替へ縊荷堂ふじ岡開で宴が彩る
上村集落守る千余年若葉光 暇の空より生まれし彩の石鹼玉	夏くるや波逆立てて天竜川 竹の子の手持料理を使いきり	きじ鳩の巣立つや孫の語彙ふえる				
わざと なむけ いいろ しゃばんたま						
（短歌会 夢あるて）						

天竜に綱うつ影や菜種つゆ	磯部セツ子
風鈴に一句を添へる風の筋	
新緑の木曾路は眩し直走る	
山峠のしつぽ触れ合ふ鯉幟り	
バイク止め橋のまん中春嵐	
渓谷の木々に勝りし山の藤	
田中 静	
片桐 洋子	
下平 玲子	
三島 保子	
三島 里子	
三島 里子	

同年の宿に「ふるさと」歌いたる笑顔と美声の友は逝きる  
八日会

〈豊丘川柳クラブ豊柳会〉

果頤正福尺勞美選

大倉 知江  
「ドッコイシヨ」合言葉のごと曾子の合わす幼と心が通うひと時  
帶芯を解きて繕ふ足袋の底よなべ夜鍋する母まだ若かりき  
毛涯百合子

亡き母の思い出今はおぼろなり写真で偲ぶ若き面影  
九十歳の伯母の口元に薄き紅「今が幸せ」穏やかな笑み  
壬生 千寿

吉澤 新子  
久保田 姬  
はつ夏の風に乗りきてつばくろの菓作り求め電線に二羽  
〈あしたば短歌会〉

母の日のプレゼントをば断わるも届くブラウス吾が意にぴたり  
風もなく照りくる猛暑は三十五度舗装の路は陽炎のかげう立つ  
リニア線のダンプ往来に百年の古屋を友は不安気に語る  
河原 梨花 松島 八重 寺元 和室